

平成24年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月6日

上場会社名 株式会社 ファーストリテイリング
 コード番号 9983 URL <http://www.fastretailing.com/jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 柳井 正

問合せ先責任者 (役職名) グループ執行役員 CFO (氏名) 岡崎 健

TEL 03-6865-0050

四半期報告書提出予定日 平成24年7月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年8月期第3四半期の連結業績(平成23年9月1日～平成24年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年8月期第3四半期	743,541	14.0	119,323	14.1	118,807	19.2	72,517	35.8
23年8月期第3四半期	652,023	△1.1	104,572	△15.3	99,692	△16.2	53,401	△20.5

(注) 包括利益 24年8月期第3四半期 92,496百万円 (49.7%) 23年8月期第3四半期 61,788百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年8月期第3四半期	712.13	711.56
23年8月期第3四半期	524.59	524.33

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年8月期第3四半期	589,775	390,847	65.0
23年8月期	533,777	319,911	59.0

(参考) 自己資本 24年8月期第3四半期 383,262百万円 23年8月期 314,730百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年8月期	—	95.00	—	85.00	180.00
24年8月期	—	130.00	—		
24年8月期(予想)				130.00	260.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年8月期の連結業績予想(平成23年9月1日～平成24年8月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	929,500	13.3	131,500	13.0	131,000	22.3	79,000	45.3	775.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 1社 (社名) FAST RETAILING (SINGAPORE) PTE. LTD. 、除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年8月期3Q	106,073,656 株	23年8月期	106,073,656 株
② 期末自己株式数	24年8月期3Q	4,223,920 株	23年8月期	4,257,643 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年8月期3Q	101,831,717 株	23年8月期3Q	101,795,709 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中でありませぬ。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の背景、前提条件等については、四半期決算短信【添付資料】4ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(7) 重要な後発事象	12
4. 補足情報	13
(1) 部門別売上実績	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成23年9月1日～平成24年5月31日）におけるわが国の経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により厳しい状況が続いたものの、緩やかながら回復傾向が続いております。しかし、欧州の債務危機による世界経済の下ぶれリスク、円高による国内景気の減速懸念など、依然として不透明な状況のまま推移しております。また、中国におけるアパレル製造コスト上昇など、当社を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いております。

このような環境の中、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高7,435億円（前年同期比14.0%増）、営業利益1,193億円（同14.1%増）、経常利益1,188億円（同19.2%増）、四半期純利益725億円（同35.8%増）と増収増益となりました。国内ユニクロ事業、海外ユニクロ事業及びグローバルブランド事業と、すべてのセグメントで増収増益を達成いたしました。また、会計処理の変更等に伴い、前年同期に計上した特別損失96億円の負担が当期ではないこと、相対的に税率の低い海外子会社の利益貢献が高まったことによる連結実効税率の低下などから、純利益は大幅な増益となっております。

当社グループは、中期ビジョンとして「世界No. 1アパレル製造小売グループとなる」ことを目標に、「グローバル化、グループ化、再ベンチャー化」を進めております。特に海外におけるユニクロ事業の拡大に力を注いでおり、中国・香港、韓国、シンガポール、台湾、マレーシア、タイ、フィリピンといったアジア地区における店舗数の拡大や、ニューヨーク、パリ、ロンドン、ソウル、東京をはじめとする世界主要都市におけるグローバル旗艦店の出店により、事業基盤の強化を図っております。ユニクロの商品開発では、素材メーカーとの開発体制を強化し、秋冬シーズンにはヒートテック、ウルトラライトダウン、暖パンなど、また、春夏シーズンには男性向けのシルキードライ、女性向けのサラファイン、ブラトップなどの機能性インナーの開発をすることで、需要を拡大しております。ユニクロ以外の事業においても、セオリー事業、ジューシー事業で積極的に出店を進め、事業の拡大を目指しております。

[国内ユニクロ事業]

国内ユニクロ事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は5,032億円（前年同期比4.4%増）、営業利益は927億円（同1.8%増）と増収増益となりました。そのうち、当第3四半期連結会計期間（3月～5月）では、売上高は1,386億円（同1.0%減）、営業利益は204億円（同1.2%減）と減収減益となっております。

当第2四半期連結累計期間（9月～2月）では、ヒートテック、ウルトラライトダウン、暖パンをはじめとする冬のコア商品の販売が好調で、同期間における既存店売上高は前年比2.3%の増収でしたが、当第3四半期連結会計期間（3月～5月）の既存店売上高は同5.4%の減収でした。この要因としては、春物在庫を絞り込んだことで端境期の販売が伸び悩んだこと、また、気温が低く推移したことにより夏物商品の動きが鈍かったことがあげられます。出店につきましては、スクラップ・アンド・ビルドによる店舗の大型化を進めており、当第3四半期連結累計期間では24店舗を出店し、18店舗を閉店した結果、5月末の店舗数は849店舗（フランチャイズ店21店舗を含む）となりました。

当第3四半期連結会計期間（3月～5月）における売上高総利益率は、綿花などの素材価格上昇の一巡と円高メリットによる原価率改善、また、春物の値引き販売の減少により、前年同期比1.5ポイント上昇しております。また、経費削減努力を進めましたが、当第3四半期連結会計期間（3月～5月）における売上高販管費比率は前年同期比で1.6ポイント上昇しております。

[海外ユニクロ事業]

海外ユニクロ事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比66.4%増の1,225億円、営業利益は同40.4%増の136億円と、大幅な増収増益を達成いたしました。中国、台湾、韓国を中心に出店を加速し、当第3四半期連結累計期間では98店舗を出店（4店舗閉店）、5月末の海外ユニクロ事業全体の店舗数は275店舗まで拡大いたしました。

当第3四半期連結会計期間（3月～5月）においては、売上高は前年同期比61.1%増の377億円、営業利益は同19.8%増の21億円と、増収増益を達成しております。アジア地区を中心に好調な既存店売上高の伸びが続いていること、中国、台湾、韓国を中心に大量出店が継続していることから、大幅な増収基調が続いております。収益面においては、アジア地区では順調な増益トレンドが続いているものの、米国ユニクロ事業において、ニューヨーク34丁目店、およびソーホー店が計画を下回る売上となっていることから、赤字幅が拡大しております。

[グローバルブランド事業]

グローバルブランド事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比22.7%増の1,159億円、営業利益は同68.5%増の134億円、そのうち、当第3四半期連結会計期間（3月～5月）の売上高は、同33.8%増の410億円、営業利益は同97.2%増の55億円と大幅な増収増益を達成いたしました。

セオリー事業は日米ともに既存店売上高の増収が続き、計画を上回る増益を達成しております。ジーユー事業は、3月30日にオープンした銀座店の波及効果により、3月以降の既存店増収率が40%を超え、目標として掲げておりました「年商500億円」を7月1日時点で突破いたしました。1店舗当りの売上高が拡大したことにより、収益性も改善し、通期では50億円の営業利益を予想しております。今後も、グローバルブランド事業の柱の事業として高い成長が期待されております。コントワー・デ・コトニエ事業は計画通りの増収増益を達成し、プリンセス・タム・タム事業の業績は計画を下回り、減収減益となりました。

[CSR活動]

当社グループではCSR活動として、「全商品リサイクル活動」、「ソーシャルビジネス」、「障がい者雇用」、「労働環境モニタリング」、「環境保全」に重点的に取り組んでおります。

「全商品リサイクル活動」は、お客様が不要となったUNIQLO、g.u.の商品を店舗でお預かりし、必要な人々に配布する活動です。回収数は2012年5月末で累計1,400万点を超えました。3月からは香港、台湾、上海市内の店舗でも回収活動を開始し、現在9つの国や地域で活動しています。回収した衣料の多くは、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）などを通じ、世界中の難民キャンプ等に届けており、直近の支援活動では、昨年よりケニアの難民キャンプへ、1カ国あたり過去最大級となる約100万点の衣料を届けることができました。バングラデシュでの「ソーシャルビジネス」は、生産から販売まで一貫して現地で行い、貧困・衛生・教育などの社会的課題の解決を目指しています。人気が高いメンズの布帛シャツやキッズ商品のアイテム数を増やし、冬季に需要が高い防寒着の販売を強化したことなどにより、売上高を着実に伸ばしています。生産数量の増加にともない、当社グループの強みを活かしたビジネスを通じて、生産パートナーとさらなる雇用創出を目指します。「障がい者雇用」では、2001年から「1店舗に1名以上」を目標に取り組み、現在、国内ユニクロの約9割の店舗で雇用しております。韓国のUNIQLOでは2010年10月に取組みを始め、2012年5月末時点で40名のスタッフが店舗で働いており、また今年からはシンガポール、マレーシア、台湾でも雇用を開始するなど、海外での取組みも進めております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は5,897億円となり、前連結会計年度末に比べ559億円の増加となりました。これは主として、現金及び預金が583億円増加したことによるものです。

負債は1,989億円となり、前連結会計年度末に比べ149億円の減少となりました。これは主として、支払手形及び買掛金が86億円増加したこと、為替予約が295億円減少したことによるものです。

純資産は3,908億円となり、前連結会計年度末に比べ709億円の増加となりました。これは主として、利益剰余金が503億円増加したこと、繰延ヘッジ損益が166億円増加したことによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第3四半期末における現金及び現金同等物（以下、「資金」といいます）は、前連結会計年度末に比べ、685億円増加し、2,706億円となりました。

営業活動による収入は、1,266億円となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益1,176億円によるものです。

投資活動により支出した金額は、301億円となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出208億円、無形固定資産の取得による支出64億円、敷金及び保証金の差入による支出63億円によるものです。

財務活動により支出した金額は、283億円となりました。これは主として、配当金の支払額221億円、長期借入金の返済による支出20億円によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績を考慮し、以下のとおり修正いたします。

なお、平成24年4月12日付「平成24年8月期 第2四半期決算短信」で発表しました通期の連結業績予想との差異は以下のとおりです。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	941,500	138,000	137,500	81,500	800.25
今回修正予想(B)	929,500	131,500	131,000	79,000	775.65
増減額(B-A)	△12,000	△6,500	△6,500	△2,500	—
増減率(%)	△1.3%	△4.7%	△4.7%	△3.1%	—
前期実績	820,349	116,365	107,090	54,354	533.93

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結会計期間において、FAST RETAILING (SINGAPORE) PTE. LTD. を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(追加情報)

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	64,386	122,748
受取手形及び売掛金	17,796	34,514
有価証券	137,728	147,872
たな卸資産	92,750	79,692
繰延税金資産	31,802	18,407
未取還付法人税等	10,453	206
その他	15,361	10,347
貸倒引当金	△307	△253
流動資産合計	369,971	413,537
固定資産		
有形固定資産	58,016	69,627
無形固定資産		
のれん	21,648	16,996
その他	19,102	22,241
無形固定資産合計	40,751	39,238
投資その他の資産	65,038	67,370
固定資産合計	163,806	176,237
資産合計	533,777	589,775
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	59,395	68,090
短期借入金	3,978	1,817
1年内返済予定の長期借入金	3,243	3,397
未払法人税等	14,721	23,282
為替予約	59,640	30,113
引当金	6,987	3,121
その他	34,878	40,815
流動負債合計	182,846	170,638
固定負債		
長期借入金	13,688	9,788
引当金	63	63
その他	17,268	18,436
固定負債合計	31,020	28,288
負債合計	213,866	198,927

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,273	10,273
資本剰余金	5,223	5,503
利益剰余金	369,717	420,111
自己株式	△16,144	△16,020
株主資本合計	369,070	419,869
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△16,541	△16,484
繰延ヘッジ損益	△35,583	△18,902
為替換算調整勘定	△2,215	△1,220
その他の包括利益累計額合計	△54,339	△36,606
新株予約権	510	794
少数株主持分	4,670	6,789
純資産合計	319,911	390,847
負債純資産合計	533,777	589,775

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年9月1日 至 平成23年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日)
売上高	652,023	743,541
売上原価	312,881	359,590
売上総利益	339,142	383,951
販売費及び一般管理費	234,569	264,627
営業利益	104,572	119,323
営業外収益		
受取利息及び配当金	285	558
その他	725	1,002
営業外収益合計	1,010	1,561
営業外費用		
支払利息	372	417
為替差損	4,542	860
その他	975	799
営業外費用合計	5,890	2,077
経常利益	99,692	118,807
特別利益		
固定資産売却益	55	326
貸倒引当金戻入額	5	—
その他	33	—
特別利益合計	94	326
特別損失		
会計処理変更に伴う損失	2,699	—
固定資産臨時償却費	4,050	—
減損損失	55	—
固定資産除却損	359	794
災害による損失	792	—
事業整理損失引当金繰入額	800	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,913	—
投資有価証券評価損	—	116
その他	379	621
特別損失合計	12,049	1,533
税金等調整前四半期純利益	87,737	117,600
法人税、住民税及び事業税	37,494	41,873
法人税等調整額	△4,762	632
法人税等合計	32,732	42,505
少数株主損益調整前四半期純利益	55,005	75,094
少数株主利益	1,604	2,576
四半期純利益	53,401	72,517

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成23年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	55,005	75,094
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△790	57
繰延ヘッジ損益	7,736	16,680
為替換算調整勘定	△163	664
その他の包括利益合計	6,782	17,402
四半期包括利益	61,788	92,496
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	59,991	90,250
少数株主に係る四半期包括利益	1,796	2,246

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年9月1日 至 平成23年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	87,737	117,600
減価償却費及びその他の償却費	14,862	13,633
のれん償却額	4,946	4,657
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,913	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	44	△58
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	18	0
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△2,761	△3,758
受取利息及び受取配当金	△285	△558
支払利息	372	417
為替差損益 (△は益)	△428	675
固定資産除却損	359	794
売上債権の増減額 (△は増加)	△16,449	△16,864
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,763	12,327
仕入債務の増減額 (△は減少)	10,968	8,578
その他の資産の増減額 (△は増加)	△1,417	4,711
その他の負債の増減額 (△は減少)	6,020	6,894
その他	2,917	△1,221
小計	106,054	147,830
利息及び配当金の受取額	285	563
利息の支払額	△326	△404
子会社の再生債務返済による支出	△457	—
法人税等の支払額	△57,575	△31,415
法人税等の還付額	13,074	10,051
営業活動によるキャッシュ・フロー	61,054	126,626
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	1,461	—
有形固定資産の取得による支出	△12,229	△20,852
有形固定資産の売却による収入	77	218
無形固定資産の取得による支出	△6,288	△6,409
敷金及び保証金の差入による支出	△5,419	△6,325
敷金及び保証金の回収による収入	3,055	2,968
建設協力金の支払による支出	△1,228	△446
建設協力金の回収による収入	1,642	1,399
預り保証金の受入による収入	159	59
預り保証金の返還による支出	△357	△212
関係会社株式の取得による支出	△3	△543
その他	△360	△32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,490	△30,177

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年9月1日 至 平成23年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△4,197	△2,537
長期借入れによる収入	7,331	—
長期借入金の返済による支出	△6,465	△2,011
配当金の支払額	△21,316	△21,853
少数株主への配当金の支払額	—	△248
リース債務の返済による支出	△1,393	△1,712
その他	264	△30
財務活動によるキャッシュ・フロー	△25,776	△28,393
現金及び現金同等物に係る換算差額	△682	△119
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	15,104	67,935
現金及び現金同等物の期首残高	200,462	202,104
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	427	574
現金及び現金同等物の四半期末残高	215,993	270,614

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成22年9月1日 至 平成23年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	その他 (注1)	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	国内ユニクロ 事業	海外ユニクロ 事業	グローバル ブランド事業				
売上高	482,182	73,681	94,442	650,306	1,716	—	652,023
セグメント 利益	91,082	9,726	7,964	108,773	22	△4,222	104,572

(注) 1 「その他」の区分に含まれる事業は、不動産賃貸業等であります。

2 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していないのれん償却額△4,946百万円が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	その他 (注2)	調整額 (注3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注4)
	国内ユニクロ 事業	海外ユニクロ 事業	グローバル ブランド事業 (注1)				
売上高	503,286	122,572	115,911	741,769	1,771	—	743,541
セグメント 利益	92,704	13,651	13,421	119,777	110	△563	119,323

(注) 1 従来よりグローバルブランド事業に含まれていたキャビン事業は、平成23年2月に事業休止したことにより、当第3四半期連結累計期間には含まれておりません。

2 「その他」の区分に含まれる事業は、不動産賃貸業等であります。

3 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していないのれん償却額△4,657百万円が含まれております。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象
該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 部門別売上実績

部門	前年同四半期 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 5月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 5月31日)		(参考) 平成23年 8月期	
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)
メンズ	201,812	31.0	215,989	29.0	255,081	31.1
ウィメンズ	222,267	34.1	233,558	31.4	275,791	33.6
キッズ・ベビー	27,305	4.2	28,262	3.8	31,813	3.9
グッズ・その他	22,046	3.4	16,210	2.2	26,799	3.3
国内ユニクロ商品売上合計	473,431	72.6	494,021	66.4	589,486	71.9
F C 関連収入・補正費売上高	8,751	1.3	9,264	1.2	10,661	1.3
国内ユニクロ事業合計	482,182	74.0	503,286	67.7	600,148	73.2
海外ユニクロ事業	73,681	11.3	122,572	16.5	93,717	11.4
ユニクロ事業合計	555,864	85.3	625,858	84.2	693,866	84.6
グローバルブランド事業	94,442	14.5	115,911	15.6	124,065	15.1
その他事業	1,716	0.3	1,771	0.2	2,417	0.3
合計	652,023	100.0	743,541	100.0	820,349	100.0

- (注) 1 F C 関連収入とは、フランチャイズ店に対する商品売上高、フランチャイズ店からのロイヤリティ収入であり、補正費売上高とは、パンツの裾上げ(補正)の加工賃及び刺繍プリントによる収入等であります。
- 2 ユニクロ事業とは、「ユニクロ」ブランドのカジュアル衣料品販売事業であります。
- 3 グローバルブランド事業は、コントワー・デ・コトニエ事業(「COMPTOIR DES COTONNIERS (コントワー・デ・コトニエ)」ブランドの国内・海外における衣料品販売事業)、プリンセス タム・タム事業(「Princesse tam.tam (プリンセス タム・タム)」ブランドの欧州における衣料品販売事業)、ジーユー事業(「ジーユー」ブランドの衣料品販売事業)及びセオリー事業(「Theory (セオリー)」、「Helmut Lang (ヘルムート・ラング)」、「PLST (プラステ)」ブランド等の国内・海外における衣料品販売事業)で構成されております。
- 4 その他事業とは、不動産賃貸業等であります。
- 5 従来よりグローバルブランド事業に含まれていたキャビン事業は、平成23年2月に事業休止したことにより、当第3四半期連結累計期間には含まれておりません。また、国内ユニクロ事業の一部を構成しておりました靴事業は、平成23年8月に靴専門店を閉店したことにより、グッズ・その他の項目に含まれておりません。
- 6 上記金額には、消費税等は含まれておりません。